

## 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語/自立活動】

### 1. 対象 6年生(6年生3人、2年生の4人の知的特別支援学級)

ASDやADHDの特性を併せ持つ児童もおり、相手の話を聴くことが難しく、一方的に自分の思いを主張する様子が見られる。また、外国籍児童や、発音が不明瞭な児童もいるため、対話的な活動ではできる限り分かりやすく明瞭な言葉で相手に伝えることが課題である。視覚優位の児童が多く、耳からの情報よりも目からの情報が入りやすく絵カードやICT機器などによる視覚支援が有効である。

### 2. 単元名 みんなで楽しむことができる学級遊びについて話し合おう

教材名 【2年】「そだんにのってください」(全6時間)

【6年】「みんなで楽しく過ごすために」(全6時間)

### 3. 単元で育成を目指す資質・能力

	児童A (5年生の目標)	児童B・C (4年生の目標)	児童D・E (1年生の目標)	児童F・G (特別支援学校の目標)
<b>知識及び技能</b>	・原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。(2)ア	・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。 (2)ア	・音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発音に注意して話すことができる。 (1)イ	・身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じることができる。(2段階) ア(ア)
<b>思考力, 判断力, 表現力等</b>	・互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。 A(1)オ	・互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめることができる。 A(1)オ	・互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。 A(1)オ	・体験したことなどについて、伝えたいことを考えることができる。 (2段階)Aウ
<b>学びに向かう力, 人間性等</b>	・進んで日常生活の中から話題を決め、目的や意図などを明確にして自分の思いや考えを伝え合おうとする。	・進んで日常生活の中から話題を決め、理由や事例などを明確にして自分の思いや考えを伝え合おうとする。	・進んで身近なことや経験したことから話題を決め、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなごうとする。	・体験したことなどについて、進んで伝えようとする。 (2段階)

### 4. 本時の目標

児童A	互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。 (思考力,判断力,表現力等)
児童B・C	互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめることができる。 (思考力,判断力,表現力等)
児童D・E	互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。 (思考力,判断力,表現力等)
児童F・G	体験したことなどについて、伝えたいことを考えることができる。 (思考力,判断力,表現力等)

5. 授業展開【 本時 ・ **単元** 】

解決したい課題や問い	
2年生 【国語】 ・どうしたら学級遊びで2年生と6年生がみんなで仲良く遊べるだろう。  ・6年生に相談をしよう。	6年生 【国語】 ・2年生と6年生が仲良く遊ぶために、どのような学級遊びを計画したり、ルールを決めたりしたらいいか話し合おう。  ・2年生に返事をしよう。
【国語】 6年生から2年生へ相談事のお返事をし、 2年生も6年生も一緒に楽しむことができる学級遊びについて話し合おう。	
【自立活動】 みんなで仲良くけんかせず、学級遊びをしよう。	

考えるための材料1	考えるための材料2	考えるための材料3
学級遊びをしたときの写真や動画	気持ちを表す絵カード	穴あきワークシート
想定される活動		
学級遊びでどのようなことをしたかを思い出し、その時に起きたことについて考える。	学級遊びをしたときの自分の気持ちや、どの気持ちに近いか選ぶ。またどのようにすれば明るい気持ちになるのか考えるきっかけにする。	相談事やそれに対する返事を穴埋め形式で記入することで、話す順序を押さえ、相手に伝わりやすい話し方をすることができる。
考えるための材料4	考えるための材料5	考えるための材料6
デジタル教科書 話し合いの動画	話し合いをするための言い回しの例	情報共有アプリ
想定される活動		
お手本となるような動画を観ることで、話し合いとはどのようなものかや、話し合いの手順や進め方を知ることができる。	言い回しの例を参考にすることによって、自分の意見を述べる手立てとすることができる。	6年生が考えた学級遊びを付箋で貼り、2・6年生みんなが楽しむことができるかを表で分類分けすることができる。

対話と思考(対話を通した協働的な問題解決のプロセス)

【2年生】

〈第一次〉○学校生活の中で友達に相談したい話題を決める活動。

「学級遊びをするときによくけんかをしてしまうね。どうしたらけんかせずに仲良く遊べるかな。」

〈第二次〉○2年生で話し合いをする。

「この遊びだったら仲良く遊べそうだと6年生に伝えようかな。」

〈第三次〉○6年生へ相談したいことをワークシートに記入し、伝える練習を行う。

「大きな声ではっきりと話せるといいな。」

<p>【2年生・6年生】          〈第四次(2年生)〉・〈第一次(6年生)〉          ○2年生が6年生に学級遊びについて相談をする。          「みんなで仲良く遊びたいよ。そのためにはどうしたらいいかな。」</p> <p>○相談されたことについて考えるために遊びを振り返る。          「2年生はこんな悲しい気持ちになっていたんだね。」</p>
<p>【6年生】          〈第二次〉○2年生からの相談を受けて、自分たちの経験を振り返り、自分の考えをまとめる。          「6年生は楽しめるけど、2年生にとっては難しい遊びが多かったかもしれないな。」</p> <p>〈第三次〉○2年生の相談事について話し合う。          「これからどうしていくのがいいのかな。」</p> <p>〈第四次〉○2年生の相談事への返事をワークシートに記入し、伝える練習を行う。          「2年生に伝わる話し方をしよう。」</p>
<p><b>本時【2年生・6年生】</b>          〈第五次〉6年生から2年生へ返事を伝え、これからの遊び方について話し合う。          ①【6年生(3人)→2年生(4人)の発表】          ○6年生は話し合いを通じて、どのようにすれば学級遊びが楽しくできるかについて考えた返事を2年生に伝える。(5分)          「いつも6年生ばかりが楽しんでいるから、2年生も一緒に楽しめるといいな。」          「ルールを工夫するともっと楽しむことができると思う。」</p> <p>②【全体】          ○2・6年生と一緒に楽しむことができる学級遊びについて話し合う。          「どんなルールにするといいかな。」          「ルールがあったらけんかにならないね。」          「6年生と2年生が一緒にチームになるのはどうかな。」          「かるただったらみんなで楽しむことができそうだよ。」          「みんなが好きだから無限積み木で遊びたいな。」</p>
<p>【2年生・6年生】          〈第六次〉○学級遊びをする。          「みんなで話し合って決めた遊びだから、けんかせずに楽しみたいね。」</p>

学習の成果(予想される生徒のあらわれ)	
児童A	: 話し合いをするときには、みんなの意見を聞くことが大切だと分かりました。 ○○という意見もあったけど、ぼくはこう思いました。
児童B・C	: 話し合いをするときには、友達の見解と比べて自分の意見に理由をそえて話そうと思います。
児童D・E	: ○○さんと同じで、ぼくも△△がいいと思いました。 ○○さんとちがって、ぼくは△△がいいと思いました。
児童F・G	: 自分のやりたい遊びを選びました。
<p>・みんなで学級遊びを楽しむためには、2年生と6年生みんなができる遊びを計画した方がいいね。          ・今後はけんかをしないでみんなで遊べるといいな。・次の学級遊びが楽しみだね。</p>	